

くろしどもゐてごきどもおなじものしてひく略下

〔七十一番歌合上〕十七番 左 ひきれうり

秋うるしぬる夜はいかにわれひきれはけめは白き村雲の月

左さること、は聞ゆるを、はけめと云やた、詞ならん、絶まといふべきを、ひきれに引れてい

へるにや、○中略

我戀はまはすのはてのうりひきれぬるかとすればいそぐ別路

左まはすのいそがはしさに、なま塗のひきれは、さもと聞えたり、

合子種類

〔大鏡三太政大臣頼忠〕惠心僧都の頭随行せられけるをりも、京中にござりていみじき御時をまう

けつ、まいりしに、この宮子○遊よりは、うるはしくかねのごきどもうたせ給へりしかばこそ、か

くてはあまりみぐるしとて、僧都乞食とゞめ給ひしかば、○下略

○按ズルニ、今昔物語ニハ此事ヲ舉テ、カ子ノゴキヲ銀ノ器トセリ、

〔空穂物語 吹上之上〕御ものだい九よろひひ、こがねのごきよきまいり物おなじかずなり、みこたち

かんたちめに、またんづのついがさねおなじろくろびきのごき、ほどくゝにまたがひて、そなへて

まひる、

〔空穂物語 菊宴一〕かくてきさいの宮賀正月廿七日にいでくる、○中略 かねのごきに、こがねのけう

てり、これらよりははじめてせぬ事なし、

〔空穂物語 藏開上〕こもちの宮の御まへに、まろがねのついがさね十二、おなじごきすへて、まきも

のうちしきいとさよらなり、

〔唐大和上東征傳〕大和上曰、不須愁、宜求方便、必遂本願、○中略 備辨、○中略 漆合子、盤卅具、

〔明月記〕建久三年四月二日癸卯、○中略 下官、○藤原 撤弓、箭、纓、劔、供、朝夕、御膳、○藏人今夜、御口、黒漆無